令和４年度　自己評価計画書

石川県立金沢桜丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備　考
1 国際社会に貢献する人材の育成を主眼として、高い志を掲げ、その実現に向け主体的に努力でき、難関国公立大学等、志望する大学に果敢にチャレンジする生徒を育てる。	① ＧＩＧＡスクール構想に基づくＩＣＴ機器の活用等を通じて、生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。	教務課 全教員	昨年度後期授業評価において、５項目におけるＡ評価の平均は54.1%であった。内訳は、「ねらい」55.1%、「熱意や工夫」60.3%、「説明や指示」53.7%、「考えさせる場面」58.9%、「興味・関心」42.7%である。	【努力指標】 全教員の授業評価において、左記項目のＡ評価を増やす。	授業評価において、「授業のねらい」「教員の熱意や工夫」「説明や指示」「考えさせる場面」「興味・関心が高まる」の5項目におけるA評価の平均が Ａ 55%以上　Ｂ 50%以上 Ｃ 45%以上　Ｄ 45%未満	Ｄの場合、改善策を検討する。	授業評価で調査する。
	② 授業や総合的な探究の時間等の活動を通して、生徒が主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。	進路指導 NSH推進 教務 学年	昨年度後期学校評価において、３教科の肯定的な回答の平均は、69%（英語68%、数学74%、国語66%）であった。 １・２年生のうちに主体的な学習ついて考え、積極的に学習に取り組む姿勢を身につけることにより、基本的な学習や弱点克服、また得意分野を伸ばす発展的な学習に取り組ませていきたい。	【成果指標】 生徒が自らの進路実現のためにどのような力が必要かを考え、主体的に学習を進めている。	自らの学習について (ｱ)授業や課題以外に積極的に取り組み、独自の学習にも取り組んでいる。 (ｲ)授業や課題に積極的に取り組んでいる。 (ｳ)授業や課題には取り組むが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (ｴ)その場しのぎの学習が多く、極端に悪い成績を取らないように勉強している。 (ｱ)＋(ｲ)の合計が Ａ 80%以上　Ｂ 70%以上 Ｃ 60%以上　Ｄ 60%未満	Ｄの場合、改善策を検討する。	学校評価(生徒)等で調査する。
			家庭学習時間調査において、昨年度1月現在、1･2年生で1日の目標学習時間(1年2.5時間以上、2年3時間以上)に達している生徒は43.9%(1年45.9%、2年41.9%)であった。 課題を適正な量でより内容の濃いものに見直すことはもちろん、主体的に家庭学習に取り組ませるためにも興味･関心を高める授業改善を進めていきたい。	【成果指標】 家庭学習時間が学年の目標値（１年２時間、２年２．５時間）に達している。	家庭学習時間が学年の目標値に達している1･2年生のそれぞれの割合が Ａ 60%以上　Ｂ 50%以上 Ｃ 40%以上　Ｄ 40%未満	Ｄの場合、改善策を検討する。	家庭学習時間調査により集計する。
	③ 国際社会において必要不可欠な英語によるコミュニケーション能力を身に付けようとする態度を育成する。	NSH推進 外国語科	英語による実践的コミュニケーション能力の育成を図り、定着度の指標としてGTECを定期的に受検している。また大学入試で、GTEC-CBTを活用する生徒が増加傾向にある。 2年次12月のGTEC(検定版)の結果は、A2-2－234人(66%)であった。1年次12月に受けた時から比べると、スピーキング分野の伸びが大きく、自分の意見を積極的に表現しようとする姿勢が備わってきている。	【成果指標】 生徒の英語による実践的コミュニケーション能力が順調に伸長している。	2年次12月に受検するGTEC検定版において、CEFR－Jの基準で、A2．2以上の成績を収めた生徒の割合が、 Ａ 70%以上　Ｂ 60%以上 Ｃ 40%以上　Ｄ 40%未満	Ｄの場合、改善策を検討する。	１２月のＧＴＥＣの結果で集計する。
	④ 高い志を持って進路目標の実現に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	進路指導 教務 学年 教科	令和３年度の合格者数は、難関大学14名、金沢大学48名、国公立大学234名、現役合格率は58.9%であった。難関大学現役合格者数は昨年と同じ10名であったが、浪人生が減少したため合格者が減少した。金大については現役生、浪人生ともに若干減少した。国公立大学現役合格率は近年20年で最高であった昨年度の数値を上回る合格者数を出した。この結果、ウの項目のみで基準を上回った。	【成果指標】 ア 難関大学合格者数　20名以上 イ 金沢大学合格者数　60名以上 ウ 国公立大学合格者数　200名以上	合格者数が Ａ ア･イ･ウの3指標すべてを達成 Ｂ ア･イ･ウのうち、2指標を達成 Ｃ ア･イ･ウのうち、1指標を達成 Ｄ ア･イ･ウの3指標とも達成できず	Ｄの場合、進学指導体制を見直し、改善策を検討する。	合格実績で集計する。

令和４年度　自己評価計画書

石川県立金沢桜丘高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現　　状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備　考
		⑤	「進学校における部活動」を追求し、学校として生徒が学習と部活動を両立できるよう配慮し、かつ指導を徹底している。	生徒指導 学年 各部顧問	昨年度後期学校評価において、効果的・効率的な部活動・学習への取組については、79%の生徒が(ｱ)と(ｲ)に答えている。 この結果は前期と比較して4%低い。低下した原因としては、後期は1・2年生の新チームとしての取り組みがまだ不十分であると考えられる。	【努力指標】 限られ時間の中で効率的・効果的な部活動を行い、学習においても効率的・効果的にできる工夫をする。	限られた時間の中で効率的・効果的な活動に取り組んでいる部活動が (ｱ)よくあてはまる (ｲ)ほぼあてはまる (ｳ)あまりあてはまらない (ｴ)あてはまらない (ｱ)＋(ｲ)の合計が A　90%以上　　B　80%以上 C　70%以上　　D　70%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。
					下校時間の遵守については、昨年度後期学校評価において、94%の生徒が(ｱ)と(ｲ)に答えている。 各部活動顧問の指導により部活動後は速やかに下校できている。下校時間の遵守が「文武両道の実践」と「進学校における部活動の追求」として重要な項目であることから、今後もさらに徹底していきたい。	【成果指標】 下校時間を遵守させることによって、学習時間の確保とけじめある学校生活を徹底していきたい。	下校時間を遵守している生徒が (ｱ)よくあてはまる (ｲ)ほぼあてはまる (ｳ)あまりあてはまらない (ｴ)あてはまらない (ｱ)＋(ｲ)の合計が A　95%以上　　B　90%以上 C　85%以上　　D　85%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。
2	校訓「質実剛健」を不易のものとし、挨拶や感謝の心、規範意識やいじめを許さない姿勢など人としての基本を身に付けた、心身ともにたくましい生徒を育てる。	①	登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。	生徒指導 総務	昨年度後期学校評価において、積極的に挨拶をしていることについては、(ｱ)と(ｲ)に答えた生徒は79%(前期79%)、保護者は67%(前期63%)であり、平均は73%となる。生徒自身は挨拶をしている認識はあるが、「誰に対しても」「積極的に」という点について保護者との差があると考えられる。 新型コロナウイルス対策としてマスクを常時着用しており、挨拶の声も小さくなっている。昨年度は各部活動の協力により登校時の「挨拶運動」を実施した。感染防止の対策を施した上で、挨拶による元気で活力ある学校づくりを目指していきたい。 昨年度後期学校評価において、きちんとした頭髪、服装をしていることについては、昨年度後期学校評価において、(ｱ)と答えた生徒は60%(前期65%)、保護者は37%(40%)となり、その平均は49%であった。 きちんとした頭髪・服装を心掛けている生徒が多い中、実践できていない生徒が一部見受けられる。生徒の変化に気付き、教職員全員が共通理解をもって指導していきたい。	【成果指標】 あいさつにより元気で活力ある学校づくりと品位ある頭髪・服装を目指して指導する。	・積極的に挨拶をしていることについて (ｱ)よくあてはまる (ｲ)ほぼあてはまる (ｳ)あまりあてはまらない (ｴ)あてはまらない (ｱ)＋(ｲ)の合計が A　90%以上　　B　80%以上 C　70%以上　　D　70%未満 ・きちんとした頭髪、服装をしていることについて (ｱ)よくあてはまる (ｲ)ほぼあてはまる (ｳ)あまりあてはまらない (ｴ)あてはまらない (ｱ)＋(ｲ)の合計が A　70%以上　　B　60%以上 C　50%以上　　D　50%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。
		②	交通安全教室、自転車マナー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール遵守の指導を行う。	生徒指導 総務	昨年度後期学校評価において、(ｱ)と答えた生徒は58%（前期59%）となっている。昨年度に引き続き、今年度も生徒の自転車による事故件数及び交通違反件数は少ないが、交通事故は一寸の気の緩みで起きるものであり、ホーム担任や放送・掲示物等による呼びかけを行い、交通安全に対する意識を高められるように努めていきたい。今年度も生徒、保護者、教職員が協力した交通安全啓発活動に取り組み、生徒の交通安全遵守の意識を高めていきたい。	【成果指標】 命にかかわることであるため、交通事故0件を目指して、交通ルールを遵守する取組や指導を行う。	生徒は自転車に乗車する際、交通ルールを (ｱ)いつも守っている (ｲ)だいたい守っている (ｳ)あまり守っていない (ｴ)ほとんど守っていない (ｱ)が A　70%以上　　B　60%以上 C　50%以上　　D　50%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。

令和４年度　自己評価計画書

石川県立金沢桜丘高等学校

	重点目標		具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備　考
		③	各課や学年が連携を密にすることによって、生徒の悩み（学習・人間関係・部活動など）が深刻化し、不登校にならないように、相談しやすい環境を整える。	相談 生徒指導 保健 学年	昨年度後期学校評価において、「桜丘高校は学習における悩みや人間関係（いじめ等）に関する悩みを相談しやすい」という質問項目に対して、「A：よくあてはまる26%」「B:あてはまる37%」の合計が63%で目標の70%に達成していない。また、「E:わからない」と答えた生徒は28%にのぼる。これらの生徒は学校で相談をしたことがないと考えられるので、悩みが生じた際にはいつでも相談できる雰囲気作りが必要である。	【成果指標】 （生徒用） 生徒が悩み（学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態など）について学校に気軽に相談することができる。 （教員用） 問題の早期発見のため、悩みを抱える生徒の発するサインを見逃さず、対応することを意識している。	（生徒用） 本校は悩み（学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態など）を相談しやすい。 (ア)とてもよくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)+(イ)が A　70%以上　　B　60%以上 C　50%以上　　D　50%未満 （教員用） 相談課と各課・学年・関係委員会とが連携し、悩みがある生徒の早期発見と対策がとられている。 (ア)とてもよくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)が A　70%以上　　B　60%以上 C　50%以上　　D　50%未満	Ｄの場合、改善策を検討する。	（生徒用） 学校評価（生徒）で調査する。 （教員用） 学校評価（教員）で調査する。
		④	面談等を通して、生徒が主体的に自分の生活や時間の使い方を振り返る、自律の態度を育成する。	生徒指導 学年	昨年度後期学校評価において、「スマートフォンの使用時間が１日１時間以内」と答えた生徒は17%（前期18%）と低い割合である。 スマートフォンの使用は、毎朝の体調チェックの報告などを含め、多岐にわたる連絡ツールとして使用されているため、生徒にとって身近なものである。しかし、使用上のモラルの問題や学習活動の弊害にも関わっているため、進学校としての使用方法を実践させたい。	【成果指標】 スマートフォンについては学年集会や担任による面談等で生徒に働きかけ、学習に効果的な使い方などに工夫できるよう自律の態度を育成する。	学習以外でのスマートフォンの使用時間が1日1時間以内であるという生徒が A　40%以上　　B　30%以上 C　20%以上　　D　20%未満	Ｄの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。
		⑤	幅広い読書を意欲的に 行うことで思考と情操 を深め、自らの人格形 成に活かす生徒の育成 を図る。	図書 学年	令和３年度は、６月１ヶ月間の１冊以上読んだ生徒は26.6%、９月１ヶ月間は37.1%、２月１ヶ月間は27.3%で、平均値は31.4%（令和２年度は43.2%）であった。	【成果指標】 １ヶ月に１冊も本を読まない生徒を減らし、進んで読書に親しむ姿勢を身につけさせる。	1ヶ月間に1冊以上本を読んだ生徒の割合が A　50%以上　　B　40%以上 C　30%以上　　D　30%未満	Ｄの場合、改善策を検討する。	読書量調査アンケートにより集計する。
3	校是「文武両道」を実践するため、教職員の共通理解のもと、生徒の主体性、自己肯定感を高め、明るく活気があり、地域から信頼される学校づくりに努める。	①	校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。	全教職員	昨年度後期学校評価において、(ア)は40%（前期45%）と減少し、(イ)は56%（前期52%）と増加した。 新教育課程に伴う観点別評価の策定、ＧＩＧＡスクール構想に対応した授業改善およびコロナ禍で増加した不登校生徒への対応をはじめとする生徒指導など業務に偏りが生じた。 全教職員が組織的に協力し、業務の平準化、課題の解決等を図っていく。	【努力指標】 教職員の共通理解のもと副主任の役割を明確化し、業務の平準化を促進させ、より組織的な学校運営を進める。	業務の平準化に向けた取り組みがなされ、組織的な学校運営が進められている。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)が A　40%以上　　B　30%以上 C　20%以上　　D　20%未満	Ｄの場合、改善策を検討する。	学校評価（教員）で調査する。

令和４年度　自己評価計画書

石川県立金沢桜丘高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現　　状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備　考
		②	校内研修会をより充実させ、今日的教育課題の理解とそれに対応しうる教員の資質を高めるとともに、若手教員早期育成プログラムを計画的に実施する。	教務 進路指導 保健 相談	昨年度後期学校評価において、(ｱ)が25%（前期29%）、(ｲ)が70%（前期67%）であった。 様々な研修がリモートとなった影響が全体の割合を下げたと思われる。 ICTの更なる活用やリモート機器活用の充実など、日々の教育活動に役立つ内容の研修を行っていきたい。	【満足度指標】 研修に取り組むことにより専門性と指導力が高まり、さらに、若手教員早期育成プログラムの計画的な実施により、以後の教育活動に役立てることができたと感じられる。	取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができた (ｱ)よくあてはまる (ｲ)ほぼあてはまる (ｳ)あまりあてはまらない (ｴ)あてはまらない (ｱ)が A　40%以上　　B　30%以上 C　20%以上　　D　20%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(教員)で調査する。
		③	部活動の活性化を通して、生徒が誠実に学校生活に取り組むとともに、自主性や自立心の育成を図る。	生徒指導 各部顧問	昨年度の部活動の加入状況は、運動部は男子80.9%(昨年76.7%)、女子46.7%(昨年43.7%)で合計62.3%(昨年59.6%)であった。また、文化部は男子7.1%(昨年8.1%)、女子50.4%(昨年52.0%)で合計30.7%(昨年30.8%)であった。 運動部と文化部を合わせた部活動加入状況は1年生92.2%(昨年95.0%)、2年生89.5%(昨年81.7%)で全体としては90.9%(昨年88.3%)であった。 部活動の加入状況は一昨年度より増加しており、学校全体として文武両道を目指す生徒の姿勢がみられる。	【成果指標】 部活動の活性化を通して、文武両道を実践する中で、生徒の自主的な取り組みと自立心の育成を目指したい。	部活動に加入している生徒の割合が A　90%以上　　B　85%以上 C　80%以上　　D　80%未満	Dの場合、改善策を検討する。	部活動加入状況を集計する。
		④	本校の教育活動に参加する保護者、地域の方々及び同窓生（保護者等）を増やすことによって、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭及び地域と学校との連携を更に深める。	総務 教務 生徒指導 学年 情報	昨年度の来校者数は、PTA総会及び学年別懇談会0名、1・2年保護者進路説明会401名、桜高祭0名、学校公開(教育ウィーク)43名、3Ｓ歩行(含協力者会議) 449名、学校訪問(中学校PTA)63名(3校)、入学式463名、卒業式454名で、1873名であった。感染症対策のために来校を控えてもらった影響が大きい。	【成果指標】 保護者等が生徒及び学校への理解を深めるため、学校が企画する行事に積極的に参加する。	本年度、下記の本校学校行事に参加した保護者の延べ人数が A　4500名以上　　B　4300名以上 C　4000名以上　　D　4000名未満 行事:PTA総会、桜高祭、学校公開、進路説明会、3S歩行、入学式、卒業式、学校訪問(中学校PTA)	Dの場合、学校行事の内容やＰＲ方法を検討する。	各学校行事の際の来校者実績で集計する。
					昨年度の本校ホームページへのアクセス数は345,385件（前年度376,647件）であった。	【成果指標】 本校ホームページをこまめに更新し、アクセス数を増やす。	年間を通じての本校ホームページへのアクセス数が A　40万件以上　　B　35万件以上 C　30万件以上　　D　30万件未満	Dの場合、改善策を検討する。	アクセスの実績で集計する。
4	組織運営・教職員の働き方の改善に対する意識を高め、時間外勤務時間が８０時間を超えないように、より効果的な教育活動を実践する。	①	業務を細部まで見直し、会議や組織の運営、業務遂行の効率化、教職員の意識改革を進めることによりワークライフバランスを図り、教育活動の充実に努める。	教務 生徒指導 全教職員	昨年度後期学校評価において、(ｱ)＋(ｲ)の合計は76%(前期67%)であった。判定もＤからＣへと上昇し、ワークライフバランスが図られるようになった。 高い目標を掲げ文武両道を推進する中で、教職員に求められる業務が多種多様であり、量的な負担も大きい。組織運営・教職員の働き方の改善に対する意識を高め、より効果的な教育活動を実践する必要がある。	【成果指標】 ワークライフバランスを意識して、生徒に対する時間を確保し、定時退校ウィーク、部活動休養日等を設けることにより、時間外勤務を80時間未満とする。	時間外勤務時間を昨年度より減少させることができた。 (ｱ)よくあてはまる (ｲ)ほぼあてはまる (ｳ)あまりあてはまらない (ｴ)あてはまらない (ｱ)＋(ｲ)の合計が A　90%以上　　B　80%以上 C　70%以上　　D　70%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価（教員）で調査する。